

あいぽーと通信

令和5年
(2023)
12月発行
第67号

トピックス
Topics

- 特集:令和5年度人権教育啓発リーダー養成講座(後期)第5回「無料塾」から見える、いま社会に必要なもの
- 令和5年度人権教育啓発リーダー養成講座(後期)第6回
- 令和5年10月25日「大島青松園訪問学習」
- 令和5年度「人権に関する児童生徒の作品」表彰式・展示会・発表(上映)会
- 障がい者問題学習 ●あいぽーと徳島情報



あいぽーと徳島では、人権に関するさまざまなイベントを開催しています。

特集

「無料塾」から見える、いま社会に必要なもの

講師: 大西桃子さん

中野よもぎ塾代表
令和5年10月24日開催

自己責任では終わらせたくない

私は中野よもぎ塾という無料塾を2014年の4月から始め、もうすぐ10年になります。本業は出版や新聞で記事を書いたり本を編集したりする仕事をフリーでやっけて、無料塾は空いた時間を使いボランティアとしてやっています。また近くの子ども食堂と連携して、フードパントリーを始めたのはコロナ禍の2020年春からです。

運営のきっかけは、2012年に子どもの貧困率が発表され、子どもの学力と経済的事情に相関関係があると知ったことが背景としてあり、学力や将来の選択肢がお金によって影響される状況を「自己責任だ」と、少子化していく世の中で放置することは、みんなにとって幸せではないと感じていました。当時は出版社に勤めていて自分からボランティア活動を実践できてはいませんでした。月謝が高く子どもを塾に通わせることができないという知り合いから家庭教師を頼まれて引き受けるうちに、「不利な状況の子たちを一箇所に集めて勉強を見たらいいんじゃないか」と思いつき、知り合いの中からボランティアで協力してくれる人を10人ほど集めて無料塾を立ち上げることができました。

無料塾の活動は最近全国で広

勉強したくてもできない子どもたちの実情

がつてきていますが、私が今いる中野区では10団体以上の無料塾が稼働しています。広く言えば主に経済的な事情で有料の塾に通っていない子どもや若者を対象に、無料あるいは月500円から1000円ぐらいの安価で勉強を教える活動です。ほとんどが私たちのような任意団体やNPO団体による運営ですが、最近では自治体や社会福祉協議会が運営している形もあります。

無料塾の活動内容にはいろいろなパターンがあり、いわゆる塾とほぼ同じような学習指導を行う、あるいは学校の宿題を手伝うだけでなく、食事や生活の支援という形でいろんな活動を複合的にしている団体もあります。家や学校に居場所がない子どもたちにとって居場所機能としての側面を持つ場合もあります。

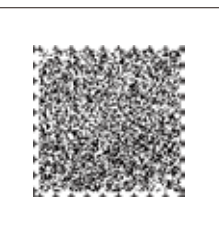
無料塾に通っている生徒は、半数ぐらいがひとり親世帯です。正規雇用の方の子も多いですし、多子家庭、外国籍をはじめ外国にルーツを持った子も増えてきています。学校の成績で見ると都立のトップの高校を目指せるような子どもも1割ほどいますが、全体的には学校のテストで平均点を超えるのが難しいなど学力的に厳しい子どもがほとんどです。

子どもや家庭へのサポートの不足

環境に目を向けてみると、ほとんどの子は家庭学習の習慣がありません。その背景には家にある自分の勉強机や部屋がないという実情があり、辞書を持っていない、そもそも家に本棚がないという子も多いです。多子家庭では小さな弟や妹と一緒の空間で過ごしているのが物理的に勉強できる場所がない子も多くいます。またヤングケアラーとして家族のお世話をしているため、学校に行けなかったり学校で寝てしまったりして勉強できないというケースもあります。

無料塾の活動をしていると、子どもたちを取り巻く環境にはいろんな社会問題が複合的に絡み合っているなど実感します。大きく分けて課題だなと感じることが4つあります。

中面へ続く



(音声コード)

令和5年度「人権教育啓発・男女共同参画の推進」啓発行事・フレアキャンパス講座

石田志芳さんおはなしコンサート
人は飛べる!羽根の休まる場所さえあれば!
～自分の命の時間を大切にできる人と生きよう～

- 日時:令和6年2月17日(土)午後1時30分～午後3時
- 会場:ときわプラザ「プライダルコアときわホール」(徳島市山城町東浜傍示1-1 アスティとくしま内)
- 講師:石田志芳さん(心理カウンセラー・作家・シンガー)
- 定員:142名
- 申込締切:令和6年1月31日まで

参加費
無料

申込
必要

第3回県民講座

**相手も自分も
大切にする
コミュニケーション**

- 日時:令和6年3月10日(日)午後1時30分～午後3時
- 会場:ときわプラザ「プライダルコアときわホール」(徳島市山城町東浜傍示1-1 アスティとくしま内)
- 講師:吉井奈々さん(コミュニケーション講師・心理セラピスト)
- 定員:142名
- 申込締切:令和6年2月27日まで

参加費
無料

申込
必要

第11回徳島カラーフリー文化祭
～わたしの色、あなたの色、
多様な性の物語～

- 日時:令和6年2月25日(日)午後1時～午後5時ごろ(予定)
- 会場:ときわプラザ「プライダルコアときわホール」(徳島市山城町東浜傍示1-1 アスティとくしま内)
- 詳細は決定次第、あいぽーと徳島のホームページでご案内いたします。

参加費
無料

申込
必要

令和5年度 人権教育啓発リーダー養成講座(後期)第7回

**コミュニケーションの場づくり
から進める多文化共生**
～多数派の意識を変えることの大切さ～

- 講師:ウスビ・サコさん(京都精華大学 前学長/全学研究機構長/人間環境デザインプログラム 教授)
- 申込必要(申込された方に配信アドレスをお伝えします)
- 配信期間:令和6年1月31日まで

講演会
限定
ネット
配信

申込
必要

講演会をホームページでご覧いただけます

ホームページ配信講座「無料塾」から見える、いま社会に必要なもの

- 講師:大西桃子さん(フリーライター/中野よもぎ塾 代表)
- ホームページ配信:あいぽーと徳島ホームページ: <https://www.aiport.jp/>
- 詳細は決定次第、あいぽーと徳島のホームページでご案内いたします。

講演会をケーブルテレビでご覧いただけます

ケーブルテレビ放映講座 ひとりじゃない～ひきこもる人・家族に寄り添う～

- 講師:池上正樹さん(ジャーナリスト/特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 副理事長)
- ケーブルテレビ放映:共通チャンネル「ケーブル12」(地上デジタル12ch)
- 詳細は決定次第、あいぽーと徳島のホームページでご案内いたします。

講演会、イベント、動画配信・放映等の詳細は決定次第、あいぽーと徳島のホームページでご案内します。

問い合わせ あいぽーと徳島(徳島県立人権教育啓発推進センター) TEL:088-664-3719
あいぽーと徳島ホームページ: <https://www.aiport.jp/>

**徳島バスシートカラー
後部広告について**

一人ひとりの人権の大切さについて考えるきっかけとしていただくため、JR徳島駅前発着の県内を巡回する路線バス4台の後部に広告を掲示しています。



人権相談のご案内

Tel.088-664-3701 (徳島県男女参画・人権課分室)

- | | | |
|-----------------------------|-------------------------|------------|
| ●人権擁護委員による相談 | 第2・第4土曜日 (10:00～16:00) | 面接相談及び電話相談 |
| ●弁護士による相談(要予約) | 第1・第3金曜日 (13:00～16:00) | 面接相談 |
| ●弁護士によるインターネット上の人権侵害相談(要予約) | 偶数月の第2金曜日 (13:00～16:00) | 面接相談 |

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

一人で悩まず
お電話を

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人 徳島ヒューマンネット
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727
E-mail:info@aiport.jp

あいぽーと徳島 検索 <https://www.aiport.jp>

- 開館時間/午前10時から午後6時まで
- 休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日) 年末年始(12月29日から1月3日まで)

公共交通機関のご案内 JR徳島駅前から徳島市営バス⑥番のりば・徳島バス[中央市場線]に乗りし、沖洲マリンターミナルにて下車。



駐車場案内図

県営有料駐車場

至 徳島駅

歩道橋

正面入口

バス停

南側入口(自動ドア)

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

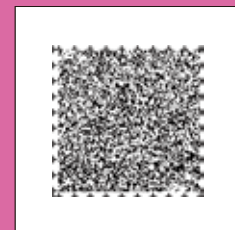
あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

あいはらと徳島

お車を利用の場合、ビル西側駐車場の「あいはらと徳島」と表記のある赤いコーンの場所に駐車してください。
満車の場合は、ビル北側の県営有料駐車場をご利用ください。
●3時まで200円



(音声コード)

令和5年11月24日 人権教育啓発リーダー養成講座(後期)第6回を開催しました。 「ひとりじゃない～ひきこもる人、家族に寄り添う～」

講師:池上 正樹さん (ジャーナリスト/特定非営利活動法人「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」副理事長)

ひきこもりは病気とよく思われますが、病名ではなく状態像です。人が怖く、他人を頼れない、家の中だけが安心できる居場所・生存領域であり、命を守るために待避し生き延びようとしている証です。

内閣府の調査では50人に1人(15歳から64歳)がひきこもり状態であると公表されており、全国推定146万人いると言われています。親は自分のせいでひきもっているとふさぎ込み、そのふさぎ込む親の姿を見て、本人は自分のせいで家族を苦しめているとますます落ち込みます。だからこそ家族が元気になることが大事であり、本人の尊厳を回復させる第一歩になります。

自分はひきこもりじゃないと言う人ほど実は、手を差し伸べなければいけない深刻な状態にあります。けれども本人はもちろん、家族も世間の目を気にして、なかなか相談したがりません。そのため周りの社会からは姿が見えないので、支援は家族を通して、本人へ届ける必要があります。

今の自分を変えたいと思う人は7割を超えています。家族の役に立ちたいと、本人のペースで家事の一端を担っています。できないことを責めるのではなく、できたことに「ありがとう」、「助かったよ」と声かけを繰り返すことで、役割の実感を与えます。この役割の実感が家庭から地域、社会へと繋がっていきます。

東京都江戸川区では、ひきこもりの状態にある人やその家族等へのサポート条例があり、取り組みをしています。安心できる居場所を作る「江戸川区ひきこもりオンライン居場所」を奇数月の第4土曜日(令和5年度からメタバース)に開催しています。メタバースで参加もでき、徳島からも参加できます。

146万人誰もが取りこぼされないために、ひきこもりに特化した法律「ひきこもり基本法」の制定が必要です。誰にでも幸せを求めて生き続けていく権利があります。自分の人生なのだから、誰からも指図や支配をされなくていい、誰もが自分の意志で選択ができる社会を目指していけたらと思っています。

令和5年10月25日 大島青松園訪問学習を実施しました。

国立療養所大島青松園にて、学芸員の案内によりハンセン病をめぐる歴史と現状について学習し、納骨堂、風の舞等の施設見学を行いました。



令和5年度 人権に関する児童生徒の作品 表彰式・展示会・発表(上映)会

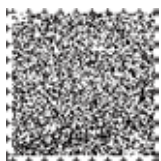
県内小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒を対象に、「ひと いのち ふれあい」をテーマとして人権作品を募集し、意見発表に係る作文・作詩作曲・標語ポスターの3部門に、総数52,311作品の応募をいただきました。

12月10日(日)徳島県立二十一世紀館すだちくん森のシアターにて人権に関する児童生徒の作品表彰式を行いました。また、多目的活動室にて12月17日(日)まで標語ポスター部門受賞作品123作品の展示と意見発表に係る作文・作詩作曲の知事賞、教育長賞受賞作品の発表の様子を上映しました。



障がい者問題学習

令和5年10月20日(金)鳴門市堀江南小学校3・4年生のみなさんが、あいぽーと徳島にて、車いす・アイマスク体験をし、障がい者問題についての学習をされました。



(音声コード)



中学生の時に担任の先生たちが気づき、母親が福祉的な支援を受けられるように動いてくれました。それまで全く地域とつながりがなかったその子は、無料塾で勉強することになりました。このように学校の担任の先生が、気付いて動いてくれないとその子の人生はどうなっていたのかと思います。公的支援が少ない中、学校と福祉が連携できておらず、地域で見守る仕組みが少ないことも、発見が遅れている理由かと思っています。

②地域の子ども居場所の少なさ
図書館で勉強してはいけないルールができたり、公園で集まって話をしていれぱうるさいから別の場所へ行つてほしいと言われたりと、十代後半の子どもたちが無料でいられる場所がありません。そのため、SNSやネットゲームへと向かいその中で色々な大人と関わりはじめます。スマホは賛

③教育機会の格差、学力格差
体験の格差が学力の格差にも繋がっていると感じています。身近にいろいろなキャリアを持つ大人がいなかったために、大学に行くことや、正社員になることが分からない子どもが多くなります。正社員の働き方や、大学生活や専門学校の学べることを知って、目標を見つけて、選択肢を増やせるようにして欲しいと思います。いろいろな家庭の事情で学力差が出てしまふのを、しかたないとするのではなく、日本の将来がどうなっていくのか危機感を持って考えていけたらと思います。

④大人の関われる
地域コミュニティの少なさ

■活動を知ることが
サポートの第一歩
子どもたちをサポートするため一人ひとりに何ができるかを考えると、まずは「知る」ということが一番大事じゃないかなと思います。子どもたちや保護者がどういう状況に置かれているから今こうなっているという、背後の状況と、子どもをサポートしているこんな活動があるということを知っていただくことです。無料塾だけでなく、子ども食堂などに関してもまだまだ情報が行き届いてないところがあります。そういった情報をSNS上で発信することやシェアする、そのワンクリックが力になることもあると思います。無料塾はお金がかからず人と場所があればできますので、ぜひチャレンジしていただいて徳島にも増えていけばいいなと思っています。難しく考えず、「とにかく人に親切にしたいな」という気持ちをもみんなが持てば、子どもたちや親の自己責任で終わらせるような言い方や考え方にならない世の中になることができると思っています。

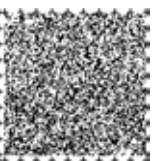


講師プロフィール

大西 桃子(おおにし ももこ)さん

中野よもぎ塾代表

本業はフリーランスの編集者、ライター。
1980年生まれ、立教大学文学部卒業。
出版社3社勤務を経てフリーランスとして独立後、2014年に本業の傍ら無料塾「中野よもぎ塾」をスタート。
主に経済的な事情で塾に通っていない中学生を対象に、無料で学習支援、高校受験指導を行う。



(音声コード)